



鶴ヶ島版ネウボラ について

高橋 剣二 議員



妊娠期から子育て期まで切れ目 なく支援するしくみである



「鶴ヶ島版ネウボラ」のイメージ図

質問一 鶴ヶ島版ネウボラを導入するに至った経緯は。

二 近年、ネウボラを導入した自治体の推移と状況は。

三 導入に向けたスケジュールは。

四 導入により、市民サービスの何が改善・向上するののか。

五 鶴ヶ島版ネウボラが他の自治体と比べて優れている点は。

答弁一（市長） 平成29年4月に子育て世代包括支援センターが法制化される動向を踏まえたもの。28年4月1日には県内で11市町村であったが、29年度には35市町村が実施する予定である。

三 先進自治体の視察や関係課の検討会議を行ってきた。今後は、保健センターに母子保健コーディネーターを、こども支援課に子育て支援相談員を配置し、4月から

相談支援体制をスタートさせる。

四 妊娠・出産期の母親の育児負担の軽減を図る。また、子育て期の家庭のニーズに応じたサービスを提案する。多くの親子に寄り添えるよう、医療との連携を図り、包括的な支援を実施していく。

五 母子保健コーディネーターと子育て支援相談員が連携して個々の家庭に寄り添い、成長に応じた支援を包括的かつ継続して提供する。また、家庭訪問などの支援も機動的に行う。



子どもと家庭の貧困状況 実態調査を 把握しており、今後検討する

山中 基充 議員



質問一 本市の子どもの貧困の実態把握の現状について。

二 民間や行政による貧困対策の現状について。

三 支援計画策定について。

四 地域子供の未来応援交付金を活用して実態調査を。

答弁一（市長） それぞれの業務

を実施する中で把握している。支援が必要と判断されるケースは、教育委員会や児童相談所などの関係機関によるケース会議等で情報の共有に努めている。

二 教育の支援、生活の支援、就業の支援、経済的支援を実施している。



子ども食堂の様子

三 27年3月に鶴ヶ島市子ども・子育て支援事業計画を策定し、4つの基本目標、13の施策、74の事業を掲げ、幅広い子育て支援を展開している。

四 それぞれの業務を実施する中で、子どもの状況や家庭の経済状況を把握し、的確な支援を実施している。交付金を活用した実態調査は、今後検討する。

◎その他の質問

一 第7期鶴ヶ島市介護保険事業計画について

二 SIM鶴ヶ島2030の実施を

三 審議会情報の公開と議事録作成の現状について